



一般財団法人 Ruby アソシエーション 2017年度 第2回通常理事会議事録

開催日時 2018年3月16日(金) 14:00~15:00

開催場所

松江：オープンソースラボ（松江市朝日町478番地18 松江テルサ別館2階）

東京：ネットワーク応用通信研究所様オフィス（東京都千代田区外神田5-6-12 コーワビル3 2階）、
笹田理事任意の場所

福岡：田中理事任意の場所

理事総数6名

出席理事5名 松江：松本行弘（理事長）、井上浩（副理事長）

東京：笹田耕一（理事）、橋本明彦（理事）

福岡：田中和明（理事）

出席監事 今岡正一

事務局：前田修吾（事務局長）、横田早百合（事務局員）、徳永翔二（事務局員）、江角俊秀（事務局員）

オブザーバー：本田智和（まっえ産業支援センター）、江角治尚（支援スタッフ）

定款第39条の規定により出席理事から井上浩副理事長を議長として選出し、井上副理事長が議長席につき、当財団の理事現在数6名中、定款第40条第1項及び第2項の規定に従い、議長を含め議決に加わることのできる理事5名の出席により定足数を満たしたので本理事会は有効に成立した旨を宣し、テレビ会議システムにより出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認のうえ議事に入った。冒頭、松本理事長より有意義な財団事業の実施に向け本日の議事進行、協議に期待する旨の挨拶があった。

■ 審議事項

審議事項1：「2017年度 事業報告書案、決算見込」

定款第7条第1項に基づき（審議事項2以降も同様）、議長の指名により前田事務局長が2017年度事業報告書案の説明を、横田事務局員が2017年度決算見込の説明を行った。

以下、質疑応答。

笹田理事：協賛会員事業において、Silverがいくつか減ってPlatinumが1つ増えたとあるが、このとおりだと協賛金的には増えているはずだが決算見込上は減っている。これはどうしてか。

横田事務局員：2017年度に新たに加わったPlatinum会員様が下期からの協賛であるためだ。

橋本理事：公募型開発支援プロジェクトの応募件数の推移はどうか。

前田事務局長：おおよそ毎年このくらいの件数で推移している。

今岡監事：利益剰余金が随分あるので、何か将来的な計画のために積み立てておくというのなら別だが、そうでないのなら積極的に使う計画を立てられるのが好ましいかと思う。

前田事務局長：その点で以前お話にあがったのが試験問題の改訂だが、2017年度は改訂がなかったのものでそこでコストが掛かっていないといった面はある。もうひとつは、現在は標準化のところではあまり予算を使っていないが、次回の改定の際にどうするかといったところがある。

審議の後、議長がこれについての承認を求め、全員異議なくこれを承認した。

審議事項2：「2018年度 事業計画案、予算案」

議長の指名により前田事務局長が2018年度事業計画案の説明を、横田事務局員が2018年度予算案の説明を行った。

以下、質疑応答

田中理事：常勤スタッフを募集しているとのことだが、いつ頃決まるといった見通しはあるか。

前田事務局長：サイトに掲載しているが未だ応募はなく、目処が立っていないという状態だ。

橋本理事：来年度の事業計画の大きな目玉となることは何か。

前田事務局長：新しい事業が追加できていないといったところは、先程のスタッフの件もあり、まずは現在の事業を継続して行うための体制をつくるということが課題かと思っている。

笹田理事：Ruby biz グランプリ等と連携することで事例紹介につなげていくための仕組みがつくれるといいかと思う。Ruby biz グランプリの応募用紙についても、主催者側と連携して、事例紹介につながりやすいように設定しておくなど予め工夫すると、事例紹介件数もよりスムーズに増えていくのではないか。

前田事務局長：Ruby biz グランプリについては受賞した企業様にコンタクトを取らせていただいたりしているが、また主催者側とそういった取り組みについて相談したいと思う。

笹田理事：Ruby25周年記念イベントのためにRuby25周年記念の小冊子を作成したが、これはPDFとしてRubyアソシエーションに寄贈する予定だ。「Rubyの今」がわかる非常に良い資料なので、ある程度予算をつけてこれを継続的にアップデートしていくとよいのではないかと思う。

前田事務局長：積極的に検討した上で、予算に反映したい。

審議の後、議長がこれについての承認を求め、全員異議なくこれを承認した。

審議事項3：「公募型開発支援プロジェクトのメンターへの報酬について」

議長の指名により横田事務局員が本件について以下の説明を行った。

公募型開発支援プロジェクトにおいてメンターの方々には報酬をお支払いしているが、2017年度のプロジェクトのうち2件においては笹田理事がメンターを務めており、「理事への報酬」となるため、当理事会における審議事項とした。

審議の後、議長がこれについての承認を求め、笹田理事を除いた全員異議なくこれを承認した。

■その他

その他：「Ruby25周年記念イベントの報告」

笹田理事が2018年2月24日(土)に品川インターシティホールにて開催された「プログラミング言語Ruby25周年記念イベント」の報告を行った。

- ・来場者数は合計506人（一般254人、貢献者招待70人、学生25人、スポンサー参加121人、関係者36人内プレス9人）だった。
- ・各種メディアに記事が掲載されている。
- ・アンケートを見ると「とても満足した」という結果が出ていた。
- ・収支の余りは予定通りRubyアソシエーションに寄付する。

その他、議場から以下の意見があった。

橋本理事：県や市の方々に支援スタッフとして入っていただいているが、支援スタッフを出している側とRubyアソシエーション側との意見調整の場を年に1回でも設けたほうがよいのではないか。

井上副理事長：重要なことだと思うので、こちらでスケジュールを調整した上でご相談させていただきたいと思う。

本田支援スタッフ：そういった機会があるのは良いことだと思うので、是非検討させていただければと思う。

笹田理事：Ruby25周年記念イベントのスポンサー募集において、ある企業様に「広報活動として協賛したかったがスポンサー募集の情報を知らなかった」と言っていただく機会があった。何かの協賛情報含め、イベント情報であれば日付の決まった情報は集めやすいと思うので、そういった情報提供ができる仕組みを設けるとするのは、協賛会員のメリットの一つになるのではないか。

徳永事務局員：直接的なメリットがなければ協賛していただけないかということというわけではなく、例えばスタートアップが協賛会員になる動機を考えたときに、「Rubyの開発を支援しているRubyアソシエーションに我々も協賛しています」ということをアピールできることは、テクノロジードリブンなプロダクトを提供している企業であれば大きな理由になると思う。現状Rubyアソシエーションは公募型開発プロジェクトやサーバー運営費支援など、Ruby開発支援事業を既に実施しているが、まだまだこういった活動をしているこ

とを十分に知られていない。「Ruby アソシエーションにしかできないこと」として Ruby コミュニティーに対する支援は大きいので、その点を考慮した事業計画及び広報活動が重要だと思われる。

笹田理事：同意する。協賛会員の見られ方として、「Ruby アソシエーションを協賛している、イコール、こんなふうに参加しているんだ」ということが見えやすくなると良いと思う。

橋本理事：そのとおりだと思う。協賛会員のメリットが問題なのではなく、協賛会員としてお金を払いたくなるような団体か、というところにスコープを持っていてもいいだろうと思う。

前田事務局長：そういったことを考えた場合、どういったメディアで広報していくのがよいだろうか。

笹田理事：現状のリソースで Ruby アソシエーションでメディアをつくるのは厳しいかもしれないが、もう少しお金をかけて何らかの情報発信事業を計画できると良いと思う。

以上この議事録が正確であることを証するため、定款第 43 条の規定により、代表理事理事長（松本行弘）と出席監事（今岡正一）は、次に記名押印する。

2018 年 3 月 16 日

上記の通り相違ありません。

一般財団法人 Ruby アソシエーション

代表理事理事長 松本 行弘



監事 今岡 正一



